

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

23年の牛肉生産量は前年比4.7%減、24年も減少の見込み

23年12月の牛肉生産量、前年同月比1.6%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年12月の牛と畜頭数は254万9000頭（前年同月比3.4%減）、同月の牛肉生産量は99万3000トン（前年同月比1.6%減）といずれも減少した（図1）。この結果、23年累計（1～12月）の牛肉生産量は1223万1000トン（前年比4.7%減）となり、牛群が縮小傾向にある中で8年ぶりの減少に転じた。24年の牛肉生産量についてUSDAは、今後さらなる飼養頭数の減少が見込まれることから1184万3000トン（同3.2%減）とやや減少を予測している。

23年12月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は、国内生産量が減少する中で需要が堅調であることから、100ポンド当たり292.52米ドル（1キログラム当たり958円：1米ドル＝148.55円^{（注2）}、前年同月比12.3%高）とかなり大きく上昇し、依然高値で推移している（図2）。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

図1 牛肉生産量の推移

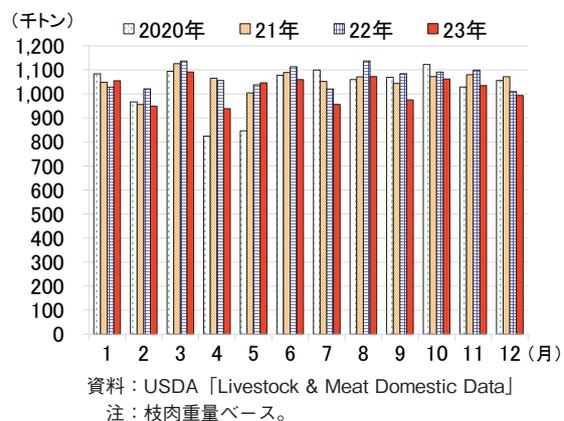
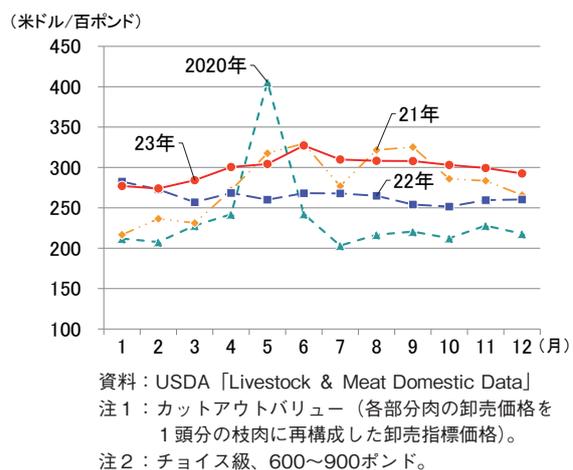


図2 牛肉卸売価格の推移



23年12月の肥育牛価格、前年同月比9.5%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年12月の肥育牛価格は100ポンド当たり171.45米ドル（1キログラム当

り561円、前年同月比9.5%高)とかなりの程度上昇し、6月のピークからはかなりの程度下落しているものの、12月としては直近数年における最高値となった(図3)。24年の肥育牛価格についてUSDAは、需要が堅調にある中、肥育牛の供給頭数減少が見込まれるた

め、平均して同170米ドル後半と、前年を2%程度上回る水準で推移すると予測している。

23年11月の牛肉輸出量、前年同月比16.9%減

USDA/ERSによると、2023年11月の牛肉輸出量は10万3989トン(前年同月比16.9%減)と大幅に減少し、同年1~11月累計では126万3435トン(前年同期比15.0%減)とかなり大きく減少した(表)。11月の輸出量を主要輸出先別に見ると、上位3カ国では日本向けが前年同月比19.0%減、韓国向けが同24.1%減、中国向けが同14.6%減と、需要の減少などから軒並み10%以上、前年を下回った。USDAによると、24年の牛肉輸出量は国内生産量の減少やアジア地域の需要減少が続くことから、前年比7.6%減の126万3300トンと見込まれている。

図3 肥育牛価格の推移

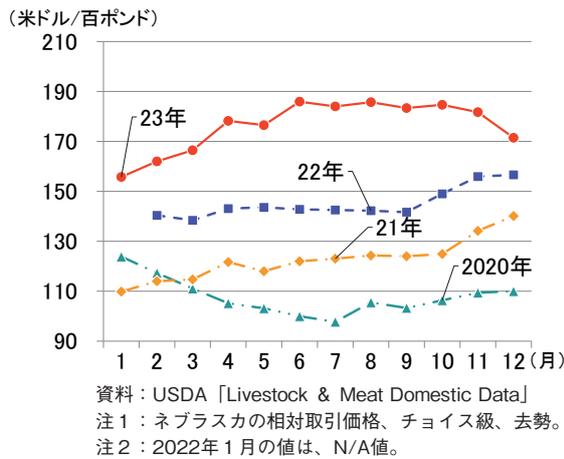


表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2022年 11月	23年 11月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	23年 (1~11月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	27,850	22,565	▲19.0%	21.7%	268,372	▲21.1%
韓国	28,923	21,952	▲24.1%	21.1%	276,132	▲18.3%
中国	19,542	16,680	▲14.6%	16.0%	210,535	▲22.0%
メキシコ	12,126	12,039	▲0.7%	11.6%	129,235	12.2%
カナダ	10,845	9,089	▲16.2%	8.7%	112,476	▲1.6%
台湾	6,069	5,104	▲15.9%	4.9%	79,425	▲6.2%
香港	3,555	3,654	2.8%	3.5%	37,973	11.5%
その他	16,268	12,907	▲20.7%	12.4%	149,288	▲21.6%
合計	125,178	103,989	▲16.9%	100.0%	1,263,435	▲15.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

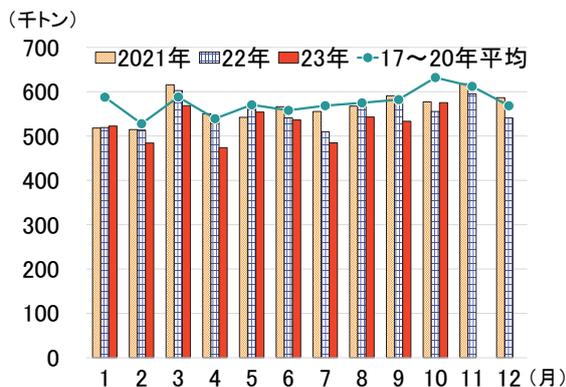
23年10月の牛肉生産量は主要生産国で前年同月を上回る

23年10月の牛肉生産量、9カ月ぶりに前年同月を上回る

欧州委員会によると、2023年10月の牛肉生産量（EU27カ国）は、と畜頭数の増加（前年同月比4.3%増の198万2730頭）により、57万5290トン（同3.6%増）となり、同年1月以来、9カ月ぶりに前年同月を上回った（図1）。同月の牛肉生産量を加盟国別に見ると、イタリア（同3.7%減）を除きすべての主要生産国で前年同月を上回り、ベルギー（同10.9%増）やポーランド（同9.1%増）などではかなりの程度増加した。同委員会が10月9日に公表した農畜産物の短期的需給見通し^{（注1）}によると、年末にかけて飼料価格の下落などにより牛肉生産量の回復が期待されるとしていた。また、23年1～10月の累計牛肉生産量は、527万5650トン（前年同期比4.2%減）となった。同見通しによると、23年の牛肉生産量は前年比3.1%減の651万トンと見込まれている。

（注1）海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003610.html）を参照されたい。

図1 牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

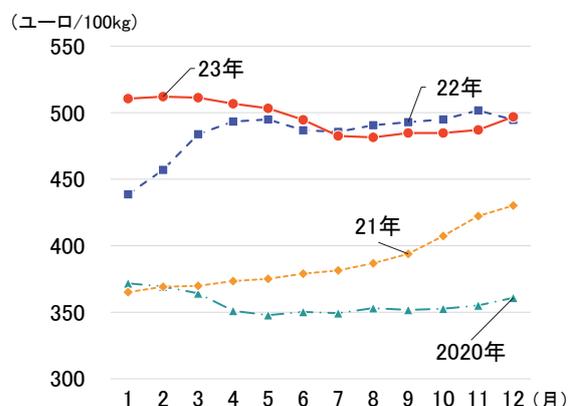
23年12月の枝肉卸売価格、前年同月をわずかに上回る

2023年12月の牛枝肉平均卸売価格^{（注2）}は、100キログラム当たり496.86ユーロ（8万228円、1ユーロ：161.47円^{（注3）}、前年同月比0.5%高）となり、6カ月ぶりに前年同月を上回った（図2）。現地報道によると、枝肉価格上昇の理由として、EU域内の供給量がひっ迫する中、クリスマスシーズンに向けて外食や小売需要が高まったことを挙げている。欧州委員会が23年12月7日に公表した35年までの中期的見通しによると、今後数年でEU域内の牛肉需給バランスが改善されるため、EUの牛肉価格は下落の可能性があるものの、中長期的には牛肉生産量の減少から高い水準に落ち着くと予測している。

（注2）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合いが平均的（5段階中3）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

図2 牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」

注：EU参考価格。

23年10月の牛肉輸出量は大幅に増加、輸入量は大幅に減少

2023年10月の牛肉輸出量は、3万8683トン（前年同月比16.6%増）と大幅に増加した（表1）。EU産牛肉価格の高止まりによる価格競争力の低下によりフィリピン向けなどは減少しているものの、22年にトルコがEU産牛肉の輸入を再開したことで、冷蔵を中心とした同国向け輸出の伸びが全体の輸出

増をけん引した。また、23年1～10月の累計牛肉輸出量は35万3446トン（前年同期比1.2%増）とわずかに増加した。

一方、同月の牛肉輸入量は、主要輸入先である英国、アルゼンチンなどからの輸入量が減少したことが影響し、1万9523トン（前年同月比19.3%減）と大幅に減少した（表2）。同委員会は前述の短期的見通しの中で、23年の牛肉輸入量を前年比2.0%減と見込んでいる。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2022年 10月	23年 10月	前年同月比 (増減率)	22年 (1～10月)	23年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
トルコ	0	5,495	—	31	33,828	109,023% (約1,091倍)	
ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,456	3,273	33.3%	25,286	29,223	0.2%	
スイス	1,642	935	▲ 43.1%	15,191	10,592	▲ 30.3%	
マケドニア	481	606	26.0%	5,898	6,177	4.7%	
その他	1,084	1,086	0.2%	26,594	19,411	▲ 27.0%	
合計	20,506	25,676	25.2%	198,548	228,285	15.0%	
冷凍	英国	5,649	5,970	5.7%	63,516	61,260	▲ 3.6%
	フィリピン	1,535	1,265	▲ 17.6%	17,734	9,253	▲ 47.8%
	カナダ	651	895	37.5%	8,300	6,213	▲ 25.1%
	香港	271	559	106.3%	2,571	4,723	83.7%
	ガーナ	317	359	13.2%	4,918	4,575	▲ 7.0%
	その他	4,253	3,959	▲ 6.9%	53,686	39,137	▲ 27.1%
	合計	12,676	13,007	2.6%	150,725	125,161	▲ 17.0%
冷蔵・冷凍計		33,182	38,683	16.6%	349,273	353,446	1.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2022年 10月	23年 10月	前年同月比 (増減率)	22年 (1～10月)	23年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
アルゼンチン	5,348	3,528	▲ 34.0%	37,535	38,856	3.5%	
ウルグアイ	3,281	1,364	▲ 58.4%	18,601	18,952	1.9%	
ブラジル	1,345	1,373	2.1%	11,926	13,266	11.2%	
米国	1,071	1,129	5.4%	11,347	11,942	5.2%	
その他	1,752	1,243	▲ 29.1%	12,253	10,933	▲ 10.8%	
合計	19,147	14,188	▲ 25.9%	150,402	142,441	▲ 5.3%	
冷凍	ブラジル	2,361	2,471	4.7%	33,896	36,704	8.3%
	英国	1,091	1,300	19.2%	12,922	12,148	▲ 6.0%
	ウルグアイ	419	627	49.6%	7,487	8,783	17.3%
	ナミビア	198	119	▲ 39.9%	1,832	2,688	46.7%
	アルゼンチン	444	400	▲ 9.9%	2,875	2,593	▲ 9.8%
	その他	532	418	▲ 21.4%	6,693	4,932	▲ 26.3%
	合計	5,045	5,335	5.7%	65,705	67,848	3.3%
冷蔵・冷凍計		24,192	19,523	▲ 19.3%	216,107	210,289	▲ 2.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

(調査情報部 藤岡 洋太)

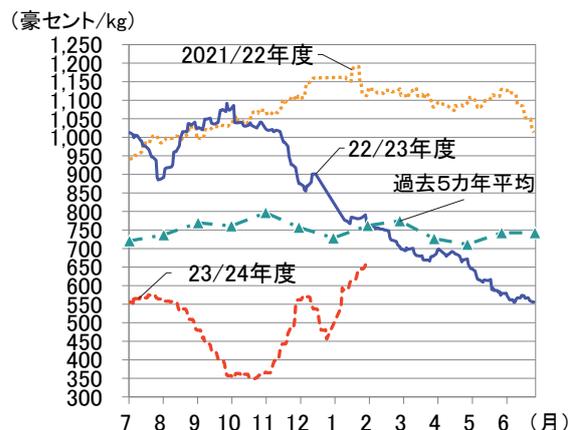
豪州

24年1月の肉牛価格、降雨による牧草肥育農家の需要増で上昇

24年1月の肉牛価格、23/24年度最高値を更新

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は2024年初から上昇に転じており、直近1月30日時点の同価格は1キログラム当たり657豪セント（651円：1豪ドル＝99.16円^{（注）}）と、23/24年度（7月～翌6月）の最高値を更新した（図1）。この要因についてMLAの肉牛市場担当者は、最近の降雨により、今後も牧草の確保が可能と見込んだ牧草肥育農家からの肥育もと牛の需要が高まったことを挙げ

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

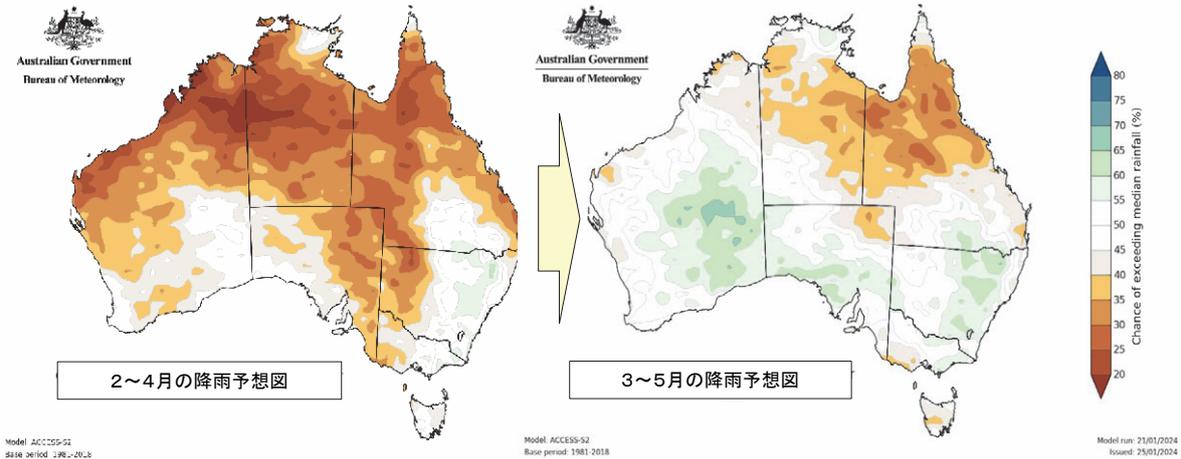
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

ている。豪州気象局(BOM)は、エルニーニョ現象が秋口(3月ごろ)まで続く可能性を示唆しており、2~4月の3カ月予報では平年よりも降雨量が少ないが、3~5月の同予報

では豪州北東部を除く広範な地域で平年並みか平年以上の降雨があるとしている(図2)。

(注)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

図2 2024年2~5月の豪州における降雨予想図



資料: BOMウェブサイトから引用(一部改変)

24年1月の成牛と畜頭数は大幅増

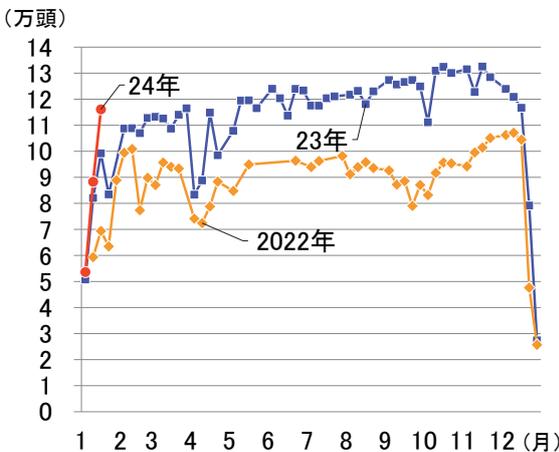
2024年1月第3週の成牛と畜頭数は、11万6113頭(前年同月同週比17.0%増)と、1月としては先の干ばつによる牛群淘汰^{とつた}でと畜頭数が特に多かった20年以来の高水準となった(図3)。現地報道によると、特にクイーンズランド州のと畜頭数が1月第2週から大

幅に増加(前週比65.4%増)しており、全体のと畜頭数の約半数を占めるとしている。

23年の牛肉輸出量は4年ぶりの高水準

豪州農林水産省(DAFF)によると、2023年12月の牛肉輸出量は10万6724トン(前年同月比40.2%増)と大幅に増加した(表)。また、年間の累計輸出量は108万2405トン(前年比26.7%増)となり、先の干ばつの影響で122万8963トンの輸出量を記録した19年以来の高水準となった。輸出先別に見ると、23年12月は米国向けが3万5782トン(前年同月比2.2倍)と大幅に増加し、年間累計でも24万6075トン(前年比83.7%増)と輸出量全体の22.7%を占めるなど、豪州の輸出増をけん引した。日本向けは年間累計では前年をやや下回った(同3.5%減)ものの、12月は1万9014トン(前年同月比15.7%増)とかなり大きく増加したことで、輸出先第2位となった。24年の

図3 成牛週間と畜頭数の推移(週間報告)



資料: MLA「National Livestock Reporting Service」
 注1: 成牛のみ(仔牛は含まない)。
 注2: 年末および3~4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

日本向け輸出について現地報道によると、米
国産牛肉供給量の減少や外食産業の需要回
復、円高予想などにより、堅調に推移する可
能性が示唆されている。ただし、個人消費を
喚起するためには、さらなる日本経済の改善
が必要とされている。また中国向けは、コロ

ナ禍からの経済回復に伴い12月、年間累計
ともに大幅に増加したが、現地報道によると、
より安価な南米産牛肉の輸入量を増やしてい
ることから、23年の同国の輸入牛肉に占め
る豪州産の割合は約7%にとどまっていると
している。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	23年	前年比 (増減率)
				(1～12月)	
米国	16,634	35,782	115.1% (約2.2倍)	246,075	83.7%
日本	16,429	19,014	15.7%	206,802	▲ 3.5%
中国	12,950	18,399	42.1%	206,191	30.4%
韓国	16,125	15,458	▲ 4.1%	188,923	17.5%
東南アジア	6,075	8,752	44.1%	116,873	30.1%
中東	2,081	2,202	5.8%	28,977	3.3%
E U	216	666	208.1% (約3.1倍)	8,547	20.9%
その他	5,608	6,451	15.0%	80,016	27.9%
輸出量合計	76,118	106,724	40.2%	1,082,405	26.7%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

N Z

23/24年度の牛肉生産量、輸出量ともに前年度を下回る見通し

23/24年度の牛と畜頭数、2カ月連続で増加

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) に
よると、2023年11月の牛と畜頭数は26万
9799頭(前年同月比4.3%増)とやや増加し、
2カ月連続で前年同月を上回った(図)。と
畜頭数の内訳では、経産牛(4万1938頭、

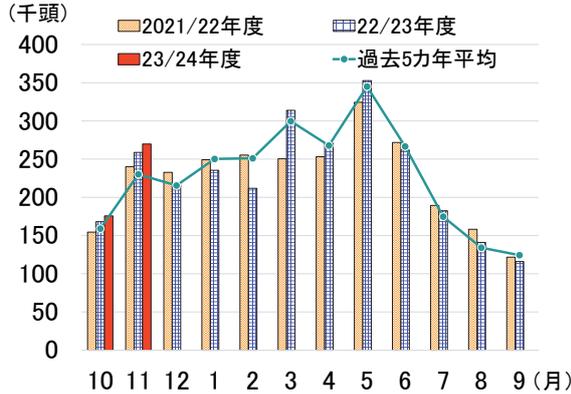
同0.4%減)を除き、去勢牛(8万5390頭、
同6.1%増)、雄牛(7万1716頭、同0.5%増)、
未經産牛(7万755頭、同9.2%増)がいず
れも増加した。また、23/24年度(10月～
翌9月)の11月までの累計でも44万5530
頭(前年同期比4.4%増)とやや増加し、同
期実績では過去最高を記録した。この要因に
ついて現地報道では、エルニーニョ現象の影

響による夏季の干ばつを懸念した生産者が、早期出荷を進めたことなどが挙げられている。

23年12月の牛肉輸出量、米国向けが大幅増

Stats NZによると、2023年12月の牛肉輸出量は5万2805トン（前年同月比18.1%増）と前年同月を大幅に上回った（表1）。輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは2万1193トン（同13.6%増）とかなり大きく増加したが、コロナ禍で輸出需要が減少した前年の反動もあり、過去3カ年平均（2万1000トン）並みとなった。また、米国向けは1万9485トン（同44.6%増）と大幅に増加した。米国内での牛群再構築が進む中で、冷蔵および冷凍品ともに好調な輸出量を維持しており、今後も加工向けを中心に堅調な輸出が続くと見込まれている。

図 牛と畜頭数の推移



資料：Stats NZ
注：年度は10月～翌9月。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

		2022年	23年	前年同月比 (増減率)	23/24年度	前年同期比 (増減率)
		12月	12月		(10～12月)	
中国		18,656	21,193	13.6%	48,013	2.2%
	冷蔵	615	1,017	65.2%	2,414	30.8%
	冷凍	18,040	20,177	11.8%	45,599	1.0%
米国		13,471	19,485	44.6%	40,047	57.1%
	冷蔵	438	644	46.9%	1,719	76.5%
	冷凍	13,033	18,841	44.6%	38,328	56.4%
日本		2,960	3,478	17.5%	7,611	7.4%
	冷蔵	719	702	▲ 2.4%	1,903	2.3%
	冷凍	2,240	2,776	23.9%	5,708	9.2%
韓国		2,684	1,616	▲ 39.8%	3,577	▲ 36.8%
	冷蔵	0	0	—	0	—
	冷凍	2,684	1,616	▲ 39.8%	3,577	▲ 36.8%
豪州		707	131	▲ 81.4%	1,121	▲ 57.2%
	冷蔵	149	29	▲ 80.6%	87	▲ 73.4%
	冷凍	559	102	▲ 81.7%	1,035	▲ 54.9%
その他		6,222	6,901	10.9%	20,100	21.8%
	冷蔵	1,103	1,422	28.8%	3,772	27.6%
	冷凍	5,119	5,479	7.0%	16,328	20.6%
合計		44,700	52,805	18.1%	120,469	15.4%
	冷蔵	3,025	3,813	26.0%	9,895	24.1%
	冷凍	41,675	48,992	17.6%	110,574	14.7%

資料：Stats NZ
注1：船積重量ベース。
注2：年度は10月～翌9月

23/24年度の牛肉生産量と輸出量、 と畜頭数減少で前年割れの見込み

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド (BLNZ) の見通しによると、2023/24年度の輸出向け牛と畜頭数は、258万5000頭（前年度比4.1%減）とやや減少が見込まれている（表2）。この要因についてBLNZは、羊肉価格の下落を受けて、肉用牛と羊を飼養する複合農家の多くが羊の淘汰を進め、肉用牛を保留する傾向が強まっているためとしてい

る。また、22/23年度は酪農部門において、生産者支払乳価の下落や生産コストの高騰から経産牛や未經産牛の淘汰が進められたことで、23/24年度は雌牛の保留傾向が強まり、同部門からのと畜向け出荷頭数の減少が見込まれることなども挙げている。これにより、同年度の牛肉生産量は66万3000トン（同3.6%減）、牛肉輸出量も46万7000トン（同3.7%減）と、いずれも前年割れが見込まれている。

表2 輸出向け牛と畜頭数などの見通し

	単位	2020/21年度	21/22年度	22/23年度	23/24年度	前年度比 (増減率)
と畜頭数	千頭	2,806	2,656	2,695	2,585	▲ 4.1%
うち去勢牛	千頭	669	647	658	630	▲ 4.3%
未經産牛	千頭	550	515	531	479	▲ 9.8%
雄牛	千頭	553	529	509	523	2.8%
経産牛	千頭	1,034	965	998	953	▲ 4.5%
生産量	千トン	717	681	688	663	▲ 3.6%
うち去勢牛	千トン	208	200	204	196	▲ 3.9%
未經産牛	千トン	134	126	129	117	▲ 9.3%
雄牛	千トン	166	159	153	157	2.6%
経産牛	千トン	209	195	202	193	▲ 4.5%
1頭当たり枝肉重量	キログラム	256	256	255	256	0.4%
輸出量	千トン	504	480	485	467	▲ 3.7%
輸出金額	百万NZドル	3,867	4,794	4,311	4,206	▲ 2.4%
輸出単価	NZドル/トン	7,672	9,987	8,887	8,997	1.2%

資料：BLNZ

注1：2022/23年度は暫定値、23/24年度は予測値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。輸出量は船積重量ベース。

(調査情報部 工藤 理帆)

豚 肉

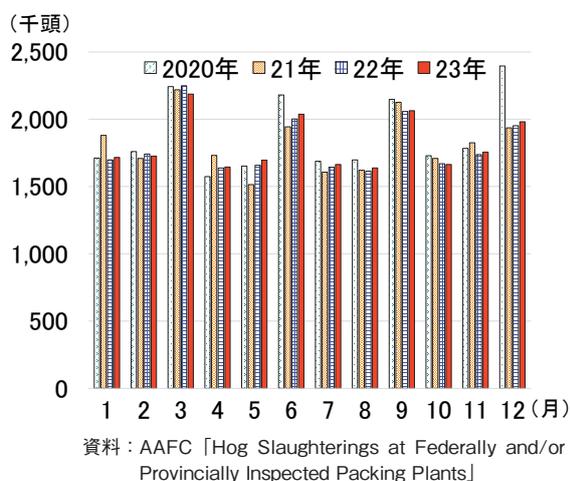
カナダ

23年の豚と畜頭数は前年比0.5%増

23年12月の豚と畜頭数、前年同月比1.5%増

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2023年12月の豚と畜頭数は198万1000頭（前年同月比1.5%増）、同年の累計（1～12月）では2177万頭（前年比0.5%増）とわずかに増加した（図1）。現地情報によると、生産費の高騰や干ばつの影響から、同国西部で母豚のと畜が進んでいることなどが要因とされている。24年の豚肉生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、母豚頭数の縮小により肥育豚と畜頭数が減少するものの、平均枝肉重量の増加がいくらか相殺し、203万トン（前年比0.5%減）と見込んでいる。

図1 豚と畜頭数の推移

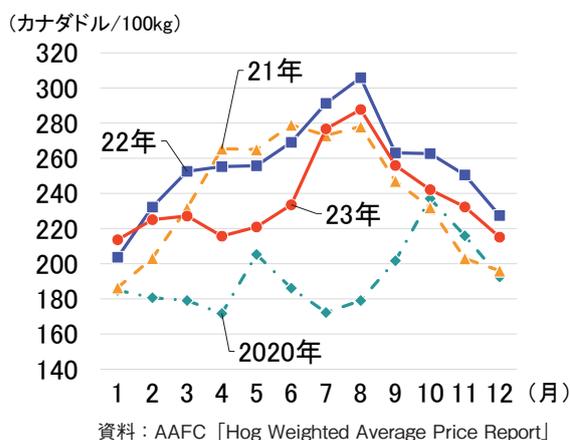


23年12月の肥育豚価格、前年同月比5.4%安

AAFCによると、2023年12月の肥育豚価格は100キログラム当たり215カナダドル（2万4007円：1カナダドル＝111.66円^{（注）}、前年同月比5.4%安）とやや、23年の平均価格は同237カナダドル（2万6463円、前年比7.3%安）とかなりの程度下落した（図2）。ただし、23年の豚と畜頭数が増加となる中で、過去5カ年平均比では11.2%高となった。この要因として、国内牛肉価格が高騰する中、相対的に割安な豚肉の需要が堅調に推移していることが挙げられる。この結果、23年の平均豚肉期末在庫は7万9851トン（前年比9.2%減）と、かなりの程度減少している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

図2 肥育豚価格の推移



23年1～11月の豚肉輸出量、前年同期比8.4%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2023年11月の豚肉輸出量は8万3900トン（前年同月比5.2%増）と、13カ月ぶりに前年同月を上回った（表）。一方、同年1～11月の累計では92万300トン（前年同期比8.4%減）とかなりの程度減少した。カナダの豚肉生産量の約6割が輸出に仕向けられているが、堅調な国内需要が輸出に影響しているとみられる。

また、23年1～11月の生体豚輸出頭数（米国向け）は、カナダ国内のと畜場閉鎖などにより処理能力が限られる中、622万7000頭（同4.3%増）とやや増加した（図3）。24年

の生体豚輸出頭数についてUSDAは、カナダの母豚飼養頭数の縮小や、米国での豚肉需要の低迷から、前年比10.6%減と見込んでい

図3 米国向け生体豚輸出頭数の推移

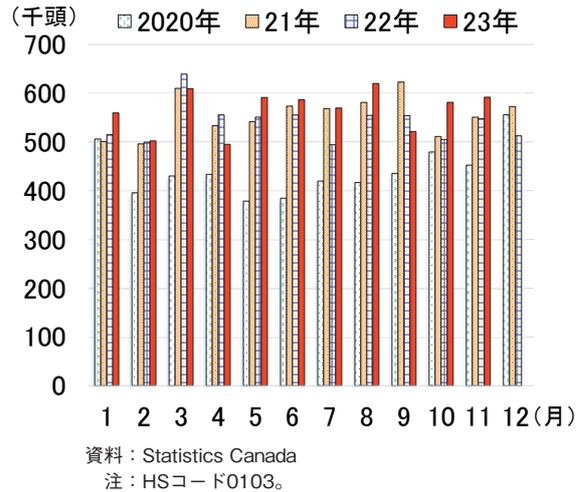


表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2022年 11月	23年 11月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～11月)	
					前年同期比 (増減率)	
米国	25.7	25.8	0.6%	30.8%	269.2	▲13.0%
中国	11.6	14.2	22.4%	16.9%	146.1	▲15.3%
日本	11.3	12.6	11.7%	15.0%	122.1	▲7.2%
メキシコ	21.6	8.8	▲59.4%	10.5%	141.2	▲3.9%
フィリピン	2.1	6.4	203.9% (約3.0倍)	7.6%	86.2	▲24.9%
韓国	3.0	4.2	40.4%	4.9%	44.7	▲9.9%
その他	4.6	12.1	162.5% (約2.6倍)	14.4%	110.8	39.3%
合計	79.8	83.9	5.2%	100.0%	920.3	▲8.4%

資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

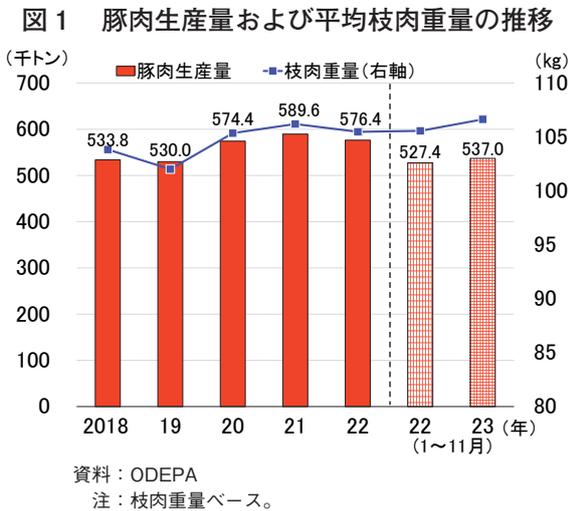
(調査情報部 小林 大祐)

23年の豚肉輸出量は3年ぶりに増加の見込み

23年の豚肉生産量は前年同期をわずかに上回る水準で推移

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2023年1～11月の豚肉生産量は、53万7049トン（前年同期比1.8%増）と前年同期をわずかに上回った（図1）。と畜頭数が6月以降回復基調（同0.8%増）で推移するとともに、1頭当たり平均枝肉重量^{（注1）}が106.6キログラム（同1.0%増）と増加した。23年は、前年に比べて飼料穀物価格が低下し、米ドルに対するチリペソ安が落ち着いたことから豚肉生産の回復につながったとみられる。

（注1）枝肉重量には頭部と皮が含まれる。

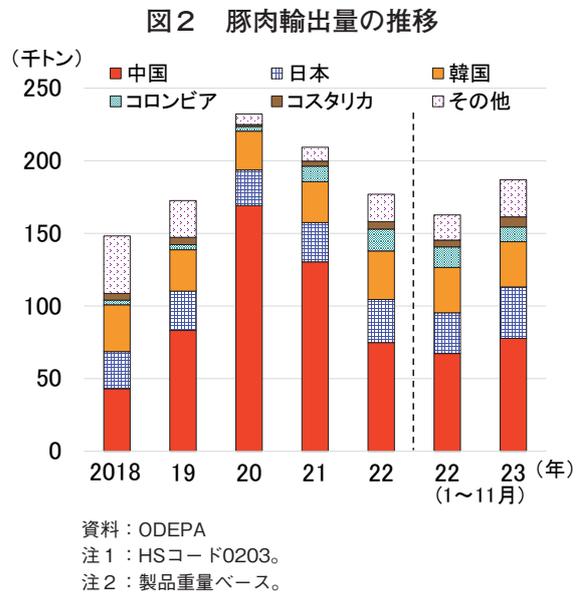


23年1～11月の豚肉輸出量は前年同期比14.9%増

2023年1～11月の豚肉輸出量は、18万6895トン（前年同期比14.9%増）と前年同期をかなり大きく上回った（図2）。これは、

最大の輸出先である中国向け（同15.5%増）が、22年の大幅な落ち込み（21年比4割減）から回復に転じたことや、これに次ぐ日本向けが大幅に増加（前年同期比26.3%増）したことが寄与した。ただし、中国向けは、同国における豚肉需給の緩和や不透明な経済状況を反映し、コロナ禍での規制解除後も大きく回復していない。これ以外では、コスタリカやペルーなどの中南米、オランダ、フィリピン向けが大幅に増加した。

チリは23年2月21日、発効した環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（CPTPP）の10番目の締結国となったことで、同国の食肉団体は、豚肉輸出の拡大につながるものと期待している。



23年の肉豚生産者販売価格は前年を上回る水準で推移

2023年12月の肉豚生産者販売価格は、前年同月比28.9%高の1キログラム当たり

1.47米ドル（218円：1米ドル＝148.55円^(注2)）と大幅に上昇した（図3）。22年の肉豚生産者販売価格は、国内経済の減速による豚肉需要の低迷や中国向け豚肉輸出の大幅な減少により一昨年の高値から4割程度下落したが、23年は海外需要の増加に伴い前年を上回って推移している。

肉豚生産者の収益性を見ると、22年は肉豚生産者販売価格が大幅に下落する一方で、ウクライナ情勢、天候不順などによる飼料穀物価格の上昇や世界的なインフレ圧力の増大により生産コストが上昇し、豚肉生産者にとって厳しい経営環境となった。23年は、肉豚生産者販売価格の上昇に加え、飼料穀物価格が低下傾向で推移したため、肉豚生産者の経営環境が改善に向かい、豚肉生産量の増加につながったとみられている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2024年1月末TTS相場。

図3 肉豚生産者販売価格およびトウモロコシ輸入価格の推移



資料：ODEPA

注：トウモロコシのHSコードは1005.90。

（調査情報部 井田 俊二）

牛乳・乳製品

米 国

23年12月の乳価は前年同月比16.6%安

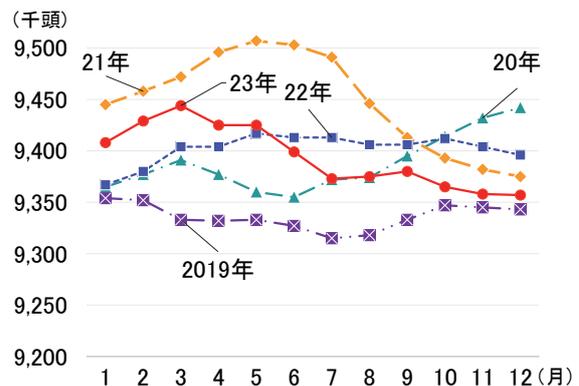
23年12月の乳用経産牛飼養頭数は前年同月比0.4%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年12月の乳用経産牛飼養頭数は935万7000頭（前年同月比0.4%減）とわずかに減少した（図1）。この要因として現地情報によると、23年の酪農マージンが低迷したことや、肉牛価格の高騰により乳用牛の出荷が増えていることが挙げられている。

23年12月の生乳生産量は、飼養頭数が減

少する中で854万7000トン（同0.3%減）と前年同月並みとなった（図2）。また、23

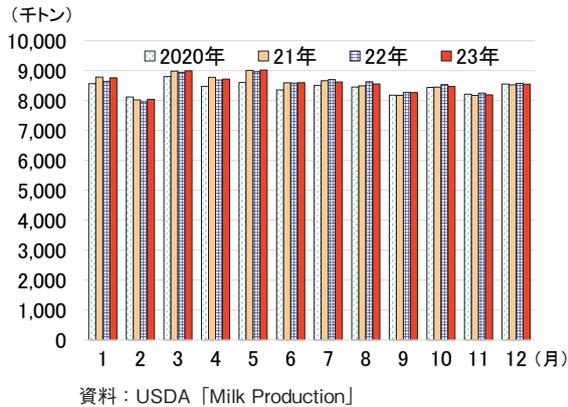
図1 乳用経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA「Milk Production」

年の累計（1～12月）では、上半期の生乳生産量が前年を上回って推移したことで1億276万2000トン（前年同）となった。24年の生乳生産量についてUSDAは、飼養頭数が減少する一方、1頭当たり泌乳量の増加から1億354万6000トン（前年比0.8%増）とわずかな増加を見込んでいる。

図2 生乳生産量の推移



23年11月の乳製品輸出量は全体的に減少

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年11月の主要乳製品輸出量は、アジア諸国などの需要が減少する中、チーズを除きいずれも前年同月を下回った（表）。品目別に見ると、脱脂粉乳はメキシコやアジア諸国の需要減により、前年同月比4.7%減とやや減少した。また、ホエイは、主要輸出先である中国の養豚業の収益性低下による飼料需要の低迷を受けて、同25.4%減と大幅に減少した。一方で、チーズは国内価格の下落により輸出競争力が増していることに加え、主要輸出先であるメキシコ向けが外食向けシュレッドチーズ需要などの高まりから、同4.1%増とやや増加した。

表 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

	2022年 11月	23年 11月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	70.8	67.5	▲4.7%	743.7	▲3.3%
チーズ	37.1	38.6	4.1%	399.0	▲3.7%
乳糖	36.1	32.3	▲10.5%	400.2	6.3%
ホエイ	19.9	14.8	▲25.4%	164.9	▲20.7%
WPC	15.1	13.5	▲10.3%	134.1	▲17.2%
バター	8.4	1.5	▲81.9%	28.3	▲54.2%

資料：USDA [Dairy Data]
注：製品重量ベース。

23年12月の平均総合乳価は前年同月比16.6%安

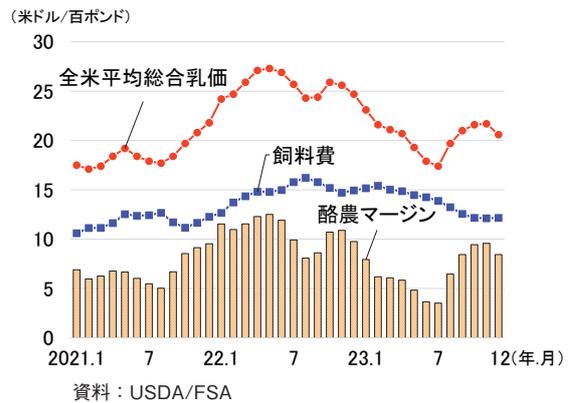
米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2023年12月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり20.6米ドル（1キログラム当たり67円：1米ドル＝

148.55円^(注1)、前年同月比16.6%安)と前年同月を大幅に下回り、前月比でも5.1%安と、5カ月ぶりに下落に転じた（図3）。現地情報によると、生乳生産量がほぼ前年並みで推移する中で、乳製品の輸出需要が軟調にあることが乳価下落の要因とされている。この結果、同月の酪農マージン^(注2)は飼料費の

下落により幾分下支えされたものの、前年同月比13.5%減の同8.44米ドル（同28円）となった。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2024年1月末TTS相場。
 (注2) 酪農家のセーフティネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図3 酪農マージンの推移



(調査情報部 小林 大祐)

E U

23年11月の生乳出荷量は減少、乳価は上昇

23年11月の生乳出荷量、3カ月連続で前年同月を下回る

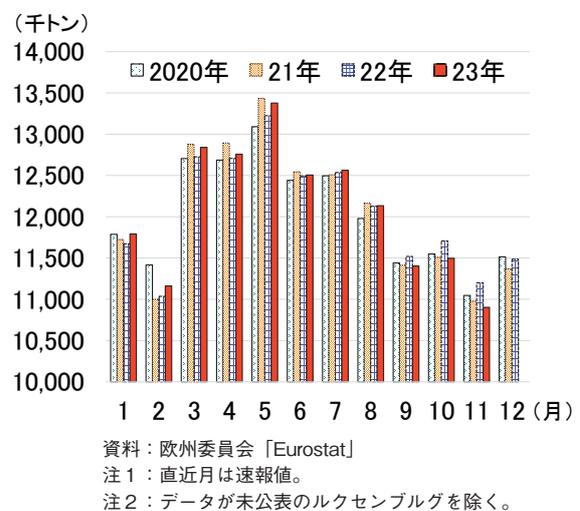
欧州委員会によると、2023年11月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1090万2000トン（前年同月比2.7%減）と3カ月連続で前年同月を下回った（図1）。

主要生産国別に見ると、ポーランド（同1.4%増）は前年同月を上回った一方、多くの国々で前年同月を下回った（表）。中でもアイルランド（同19.8%減）の減少率は大きく、9カ月連続で前年同月を下回り、23年1～11月の累計生乳出荷量でも前年同期比3.2%減となった。この要因についてアイルランド生乳生産者協会（ICMSA）は、生乳取引価格が生産コストを下回っていることや、天候の悪化から例年に比べて放牧期間が短かったことを挙げている。また、24年1月から欧州委員会の硝酸塩指令による家畜排せつ

物由来の窒素施用量の上限引き下げ地域^(注1)があることも、生乳出荷量減少の一因としている。

(注1) 欧州委員会の硝酸塩指令では、EU加盟各国の家畜排せつ物由来の窒素施用量の上限を、1ヘクタール当たり年間170キログラムまでとされている。アイルランドは同250キログラムと緩和措置が取られているが、2024年1月から同220キログラムへ引き下げられる地域がある。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：直近月は速報値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2022年 11月	23年 11月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	
ドイツ	2,543	2,504	▲ 1.5%	29,773	1.7%
フランス	1,901	1,810	▲ 4.8%	21,444	▲ 2.9%
オランダ	1,114	1,071	▲ 3.9%	12,751	1.2%
ポーランド	992	1,006	1.4%	11,945	1.8%
イタリア	1,012	985	▲ 2.7%	11,486	▲ 2.4%
スペイン	574	575	0.3%	6,721	0.2%
デンマーク	450	443	▲ 1.5%	5,224	0.5%
アイルランド	499	400	▲ 19.8%	8,510	▲ 3.2%
ベルギー	363	359	▲ 1.1%	4,277	3.4%
その他	1,752	1,750	▲ 0.1%	20,803	0.7%
合計	11,199	10,902	▲ 2.7%	132,933	▲ 0.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

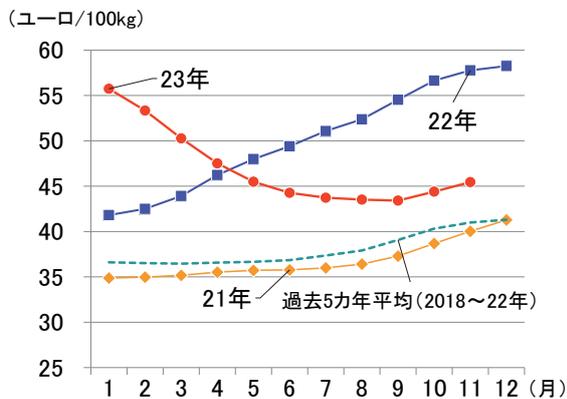
23年11月の生乳取引価格、2カ月連続で前月を上回る

欧州委員会によると、2023年11月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり45.45ユーロ（7339円：1ユーロ＝161.47円^(注2)、前年同月比21.3%安）と前年同月を大幅に下回った（図2）。ただし、前月比では2.4%高と2カ月連続で前月をわずかに上回った。同月は生乳出荷量

が季節的に減少するため、例年、生乳取引価格が上昇する傾向にある。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

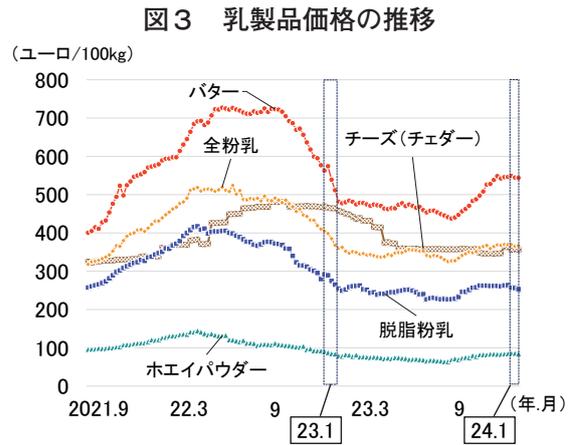
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年1月の主要乳製品価格の多くの品目で前年比安

欧州委員会によると、2024年1月21日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、脱脂粉乳が100キログラム当たり253ユーロ（4万852円、前年同期比4.5%安）、全粉乳が同367ユーロ（5万9529円、同0.4%安）、チーズが同356ユーロ（5万7483円、同23.4%安）といずれも前年同期を下回った（図3）。一方、バターは同544ユーロ（8万7840円、同6.3%高）、ホエイパウダーは同85ユーロ（1万3725円、同0.8%高）と前年同期を上回った。

現地報道によると、オセアニア産の価格上昇の影響を受け、バターの国際価格は上昇しているとされている。EUの生乳出荷量（23

年1～11月)が前年同期並みにある中で、乳固形分は前年同期を上回っており、秋以降の価格上昇に伴いバターの生産量は前年を上回っている。一方、脱脂乳の脱脂練乳向け使用が増えていることで、脱脂粉乳の生産量は前年を下回っている。



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

(調査情報部 渡辺 淳一)

N Z

バターやチーズなどの輸出量が減少

23年12月の生乳生産量、7カ月ぶりに前年同月を上回る

ニュージーランド乳業協会(DCANZ)によると、2023年12月の生乳生産量は261万2000トン(前年同月比0.9%増)とわずかに増加し、7カ月ぶりに前年同月を上回った(図1)。この要因についてニュージーランド証券取引所(NZX)は、エルニーニョ現象の影響が予想よりも弱く、適度な降雨が

続いたことで、牧草の生育状況が良好であったことを挙げている。一方、24年1月に入り、エルニーニョ現象の影響が強まったことで、全国的に気温の上昇や降雨量の減少が見られることから、今後の生乳生産への影響が懸念されている。

23年12月の乳製品輸出量、バターやチーズが大幅減

ニュージーランド統計局(Stats NZ)によると、2023年12月の乳製品主要4品目の輸出量は、品目別に大きく異なる動きを見せた(表、図2)。脱脂粉乳は最大の輸出先である中国向けが減少したが、主要輸出先のインドネシア向けの大幅な増加を受けてわずかに増加した。また、全粉乳は最大の輸出先である中国やインドネシア向けの伸びからわずかに増加した。一方、バターやチーズなどの高付加価値製品は、最大の輸出先である中国向けの大幅な減少が響き、全体でも大幅に減少した。

図1 生乳生産量の推移

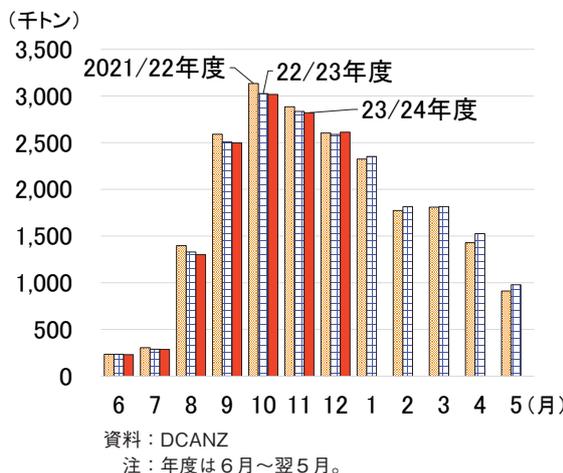


表 乳製品輸出品量の推移

(単位：トン)

品目	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	23/24年度	前年同期比 (増減率)
				(7～12月)	
脱脂粉乳	48,141	49,446	2.7%	199,379	9.5%
全粉乳	150,981	151,872	0.6%	662,840	1.2%
バターおよびバターオイル	54,723	43,812	▲ 19.9%	222,658	▲ 1.3%
チーズ	38,658	32,126	▲ 16.9%	174,793	4.0%

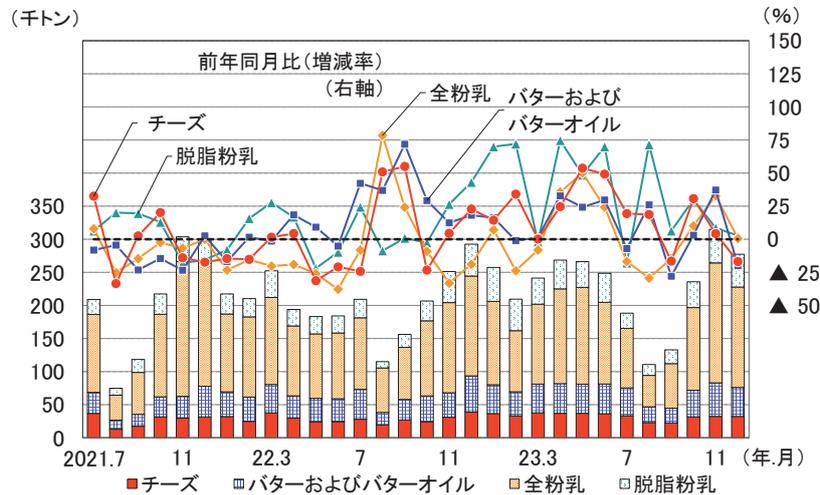
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出品量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

24年1月中旬のGDT価格、主要4品目すべてで上昇

2024年1月16日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目すべてで前回開催（同年1月2日）時の価格を上回り、全乳製品の平均取引価格は3493米ドル（51万8885円：1米ドル＝148.55円^(注2)、前回は3.9%高）と上昇した（図3）。NZXによると、乳製品は地域別の購買状況に変化が生じたとされ、全粉乳は中東が北アジア^(注3) に代わって最大購入地域となった。これは、紅海周辺の軍事

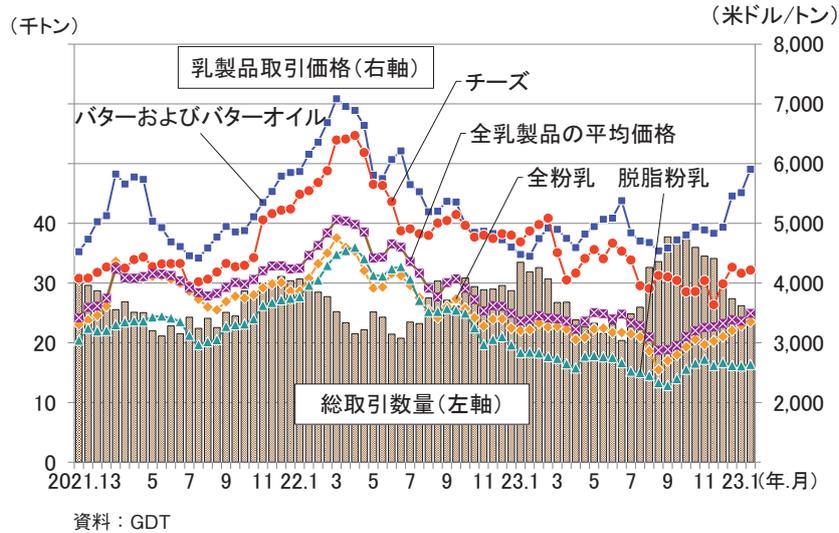
的緊張感の高まりによる先行きの不透明感から、中東の引き合いが強まったものとされている。また、NZXは、これら紅海周辺の問題に加え、記録的な干ばつによるパナマ運河の水位低下により、海上輸送費の高騰や輸送遅延が生じていることを挙げ、今後の動向を注視する必要があるとしている。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

(注3) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、北朝鮮、台湾を北アジアとしている。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 工藤 理帆)

中国

23年の生乳生産量は過去最高、乳製品輸入量は大幅減少

23年の生乳生産量、中国史上初の4000万トン超え

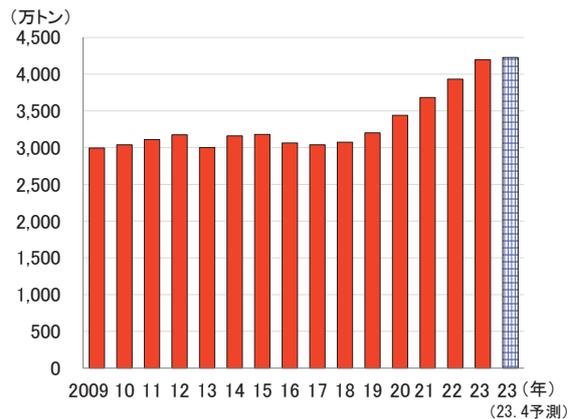
中国国家统计局によると、2023年の生乳生産量は前年比6.7%増の4197万トンとなり、同国史上初めて4000万トンの大台を超えた(図1)。

中国農業農村部は、23年4月に公表した「中国農業展望報告(2023-32)」(以下「展望報告」という)^(注1)の中で、同年の生乳等生産量^(注2)を4227万トン(前年比5.0%増)と予測していた。今回、生乳のみの生産量が4197万トンに達しており、他畜種由来の乳の生産量が過去3カ年平均で94万トンであることを考慮すると、展望報告の予測値を超える可能性が高くなっている^(注3)。

(注1) 海外情報「中国農業展望報告(2023-2032)を発表(牛乳・乳製品編)(中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003562.html)を参照されたい。

(注2) 牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む生産量。
(注3) 2023年の生乳生産量4197万トンに、他畜種由来の乳の過去3カ年平均生産量である94万トンを加えた生乳等生産量は4291万トンとなる。

図1 生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑
注：2023年予測値についてのみ、牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む。

24年も生乳価格は下落基調を維持

中国農業農村部によると、2024年1月の生乳価格は1キログラム当たり3.66元

(76.20円：1元＝20.82円^(注4)、前年同月比10.8%安)と前年同月をかなりの程度下回った(図2)。23年1月以降、ほぼ一貫して下落基調にある。

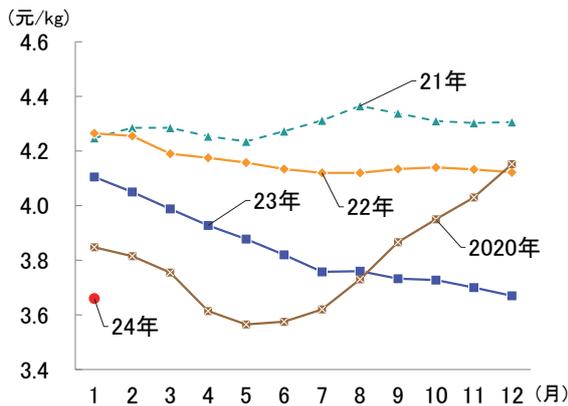
中国農業農村部は23年12月に公表した「農産物需給動向分析月報(2023年11月)」(以下「月報」という)の中で、生乳生産量が増加している一方、乳業各社が年末年始や春節に向けて乳製品の在庫積み増しを加速させているため、生乳価格は回復するとの見通しを示していたが、未だその兆しは見られない。

(注4) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

23年の乳製品輸入量は大幅減

2023年の乳製品主要8品目の輸入量は、8品目中5品目で前年割れとなった(表)。このうち、全粉乳は43万1000トン(前年比38.5%減)と最も減少幅が大きくなった(図3)。輸入量の減少に関して、中国農業農村部は月報の中で、国内の生乳生産量増が継続し、供給過剰が顕在化したためとしている。このような中、全粉乳をはじめチーズ、バ

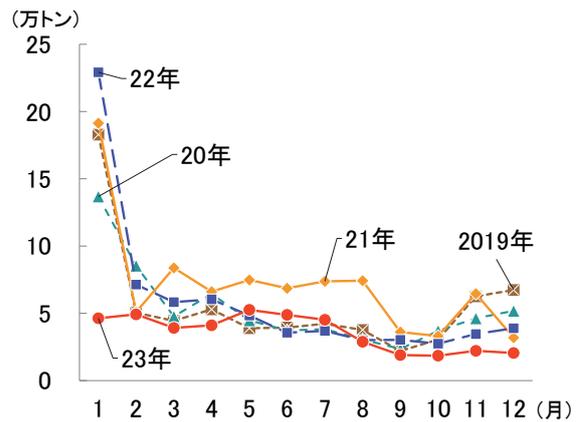
図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区(全国の生乳生産量の8割以上を占める)の農家庭先価格の平均。

図3 全粉乳の輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0402.21と0402.29。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	67.1	64.4	84.9	70.1	43.1	▲38.5%	▲38.8%
脱脂粉乳	34.4	33.6	42.6	33.5	34.7	3.4%	▲10.4%
飲用乳	72.9	84.5	99.6	72.2	54.8	▲24.1%	▲11.6%
ヨーグルト	3.2	2.8	2.5	2.2	1.8	▲17.1%	▲4.1%
チーズ	11.5	12.9	17.6	14.5	17.8	22.5%	32.6%
バター	6.2	8.6	9.7	10.1	9.3	▲8.3%	▲1.7%
育児用調整粉乳	35.6	34.8	27.3	28.0	23.8	▲15.1%	▲1.6%
ホエイ	45.1	62.3	71.8	59.9	65.6	9.5%	▲6.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10(2021年以前)と0403.20(22年以降)、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

ターなど、中国にとって最大の乳製品輸入先であるニュージーランドからの乳製品輸入については、24年1月1日から関税が撤廃された^(注5)。中国国内の需給が緩む中で、今後の乳製品輸入への影響が注目される。

(注5) 海外情報「中国向け乳製品、全品目の関税が撤廃 (NZ)」
(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003696.html)
を参照されたい。

(調査情報部 平山 宗幸)

飼料穀物

世界

世界のトウモロコシ生産量は上方修正、引き続き過去最大の生産見込み

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は、2024年1月12日、23/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した (表)。

これによると、世界の生産量は12億3573万トン (前年度比6.9%増) と前月から1366万トン上方修正された。今年度は米国や中国の増産により過去最大の生産量が見込まれている。このうち、最大の生産国である米国は、単収の上方修正により前月から272万トン上方修正された。現地報道によると、今回の上方修正は事前の市場予測を上回っているとの声が多く、米国内のトウモロコシ相場に一定の影響を及ぼすとされている。また、これに次ぐ中国も、豊作により前月から1184万トン上方修正された。これにより、高温と乾燥懸念により前月から200万トン下方修正されたブラジルの減少分を十分に補っている。今回、上方修正が行われた中国

の生産量については、中国農業農村省が同日に公表したトウモロコシ生産量 (予測) と一致している。

輸入量は、世界全体で1億9076万トン (同10.8%増) と前月から77万トン下方修正された。このうち、EUは前月から100万トン下方修正された。

消費量は、世界全体で12億1107万トン (同3.9%増) と前月から412万トン上方修正された。このうち、米国はエタノールや飼料向け需要の伸びが見込まれることで前月から191万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で2億89万トン (同11.1%増) と前月から57万トン下方修正された。このうち、ブラジルは生産量の減少を受けて前月から100万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は3億2522万トン (同8.2%増) と前月から1000万トン上方修正され、前年度からかなりの程度の増加が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2024年1月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2021/22 年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
			(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
期首在庫	31.36	34.98	34.58	34.55	▲ 1.2%
生産量	381.47	346.74	386.97	389.69	12.4%
輸入量	0.62	0.98	0.64	0.64	▲ 34.7%
消費量	315.67	305.95	314.72	316.63	3.5%
輸出量	62.80	42.20	53.34	53.34	26.4%
期末在庫	34.98	34.55	54.12	54.91	58.9%
アルゼンチン					
期首在庫	1.18	1.80	1.11	1.11	▲ 38.3%
生産量	49.50	34.00	55.00	55.00	61.8%
輸入量	0.01	0.02	0.01	0.02	0.0%
消費量	14.20	11.70	14.10	14.10	20.5%
輸出量	34.69	23.00	41.00	41.00	78.3%
期末在庫	1.80	1.11	1.01	1.03	▲ 7.2%
ブラジル					
期首在庫	4.15	3.97	10.27	10.27	2.6倍
生産量	116.00	137.00	129.00	127.00	▲ 7.3%
輸入量	2.60	1.30	1.20	1.20	▲ 7.7%
消費量	70.50	75.00	77.50	77.50	3.3%
輸出量	48.28	57.00	55.00	54.00	▲ 5.3%
期末在庫	3.97	10.27	7.97	6.97	▲ 32.1%
ウクライナ					
期首在庫	0.83	7.80	2.80	2.80	▲ 64.1%
生産量	42.13	27.00	30.50	30.50	13.0%
輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	8.20	4.90	5.50	5.50	12.2%
輸出量	26.98	27.12	21.00	21.00	▲ 22.6%
期末在庫	7.80	2.80	6.82	6.82	2.4倍
E U					
期首在庫	7.83	11.39	7.23	7.23	▲ 36.5%
生産量	71.55	52.40	60.10	60.10	14.7%
輸入量	19.74	23.15	24.50	23.50	1.5%
消費量	81.70	75.50	80.20	79.20	4.9%
輸出量	6.03	4.21	4.20	4.20	▲ 0.2%
期末在庫	11.39	7.23	7.43	7.43	2.8%
中 国					
期首在庫	205.70	209.14	206.04	206.04	▲ 1.5%
生産量	272.55	277.20	277.00	288.84	4.2%
輸入量	21.88	18.71	23.00	23.00	22.9%
消費量	291.00	299.00	304.00	306.00	2.3%
輸出量	0.00	0.01	0.02	0.02	2.0倍
期末在庫	209.14	206.04	202.02	211.86	2.8%
世界計					
期首在庫	292.94	310.52	300.10	300.56	▲ 3.2%
生産量	1,215.90	1,155.63	1,222.07	1,235.73	6.9%
輸入量	184.45	172.21	191.53	190.76	10.8%
消費量	1,198.33	1,165.59	1,206.95	1,211.07	3.9%
輸出量	206.60	180.81	201.46	200.89	11.1%
期末在庫	310.52	300.56	315.22	325.22	8.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 横田 徹)

米国の増産などで世界の大豆期末在庫は上方修正、引き続き前年度増

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年1月12日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。これによると、世界の生産量は3億9898万トン（前年度比6.3%増）と前月から10万トン上方修正された。このうち、最大の生産

表 主要国の大豆需給見通し（2024年1月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
			(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	6.99	7.47	7.30	7.19	▲ 3.7%
生産量	121.50	116.22	112.39	113.34	▲ 2.5%
輸入量	0.43	0.67	0.82	0.82	22.4%
消費量	59.98	60.20	62.60	62.60	4.0%
輸出量	58.57	54.21	47.76	47.76	▲ 11.9%
期末在庫	7.47	7.19	6.68	7.62	6.0%
ブラジル					
期首在庫	29.58	27.60	35.35	35.35	28.1%
生産量	130.50	160.00	161.00	157.00	▲ 1.9%
輸入量	0.54	0.15	0.45	0.45	200.0%
消費量	50.71	53.10	55.75	53.75	1.2%
輸出量	79.06	95.51	99.50	99.50	4.2%
期末在庫	27.60	35.35	37.60	35.80	1.3%
アルゼンチン					
期首在庫	25.06	23.90	17.21	17.21	▲ 28.0%
生産量	43.90	25.00	48.00	50.00	100.0%
輸入量	3.84	9.06	5.70	6.10	▲ 32.7%
消費量	38.83	30.32	34.50	35.50	17.1%
輸出量	2.86	4.19	4.60	4.60	9.8%
期末在庫	23.90	17.21	24.56	25.96	50.8%
中国					
期首在庫	30.86	29.25	33.79	33.79	15.5%
生産量	16.40	20.28	20.50	20.84	2.8%
輸入量	90.50	100.85	102.00	102.00	1.1%
消費量	87.90	95.00	98.00	98.00	3.2%
輸出量	0.10	0.09	0.10	0.10	11.1%
期末在庫	29.25	33.79	35.69	36.03	6.6%
世界計					
期首在庫	100.26	98.03	101.92	101.87	3.9%
生産量	360.41	375.40	398.88	398.98	6.3%
輸入量	155.52	164.84	167.65	168.35	2.1%
消費量	314.50	313.91	329.50	329.40	4.9%
輸出量	154.22	171.66	170.29	170.94	▲ 0.4%
期末在庫	98.03	101.87	114.21	114.60	12.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

国であるブラジルは、主産地のマットグロッソ州南部やブラジル北東部での高温と乾燥懸念により前月から400万トン下方修正された。一方、これに次ぐ米国は、単収の上方修正（1エーカー当たり49.9ブッシェルから同50.6ブッシェル）により前月から95万トン上方修正された。また、干ばつの影響が懸念されていたアルゼンチンやパラグアイ、ウルグアイはいずれも前月から上方修正され、中国も豊作により同じく34万トン上方修正されたことなどで、全体的にブラジルの減少分を補う結果となった。

輸入量は、世界全体で1億6835万トン（同2.1%増）と前月から70万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は前回から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2940万トン（同4.9%増）と前月から10万トン下方修正された。このうち、最大の消費

国である中国は輸入量と同様に前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億7094万トン（同0.4%減）と前月から65万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国はいずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は1億1460万トン（同12.5%増）と前月から39万トン上方修正され、引き続き前年度水準をかなり大きく上回っている。

現地情報によると、今回、米国の単収の引き上げは事前の市場予測を上回った一方で、ブラジルの生産量は依然として民間予測を上回っていることから、引き続き両国の生産動向に注視が必要とされている。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国のトウモロコシ生産、輸出は大幅増も、生産者平均価格は下落見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2024年1月12日、23/24年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、153億4200万ブッシェル（3億8970万トン^{（注1）}、前年度比12.4%増）と前月から上方修正された。乾燥気候から当初は一部地域で単収の落ち込みが懸念されたものの、天候の好転による単収の増加などから過去最大の生産量が見込まれている

米国内消費量は、エタノールや飼料向け需要の伸びが見込まれることで124億6500万ブッシェル（3億1662万トン、同3.5%増）

と前月から上方修正された。

輸出量は、21億ブッシェル（5334万トン、同26.4%増）と前月から据え置かれ、引き続き大幅な増加が見込まれている。

期末在庫は、生産量の増加を受けて21億6200万ブッシェル（5492万トン、同59.0%増）と前月から上方修正され、引き続き大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.8%（同4.9ポイント増）と前月から0.1ポイント上昇し、前年度を上回る水準が見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当た

り4.80米ドル（713円。1キログラム当たり28.1円：1米ドル＝148.55円^{（注2）}、同26.6%安）と大幅な下落が見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年1月12日米国農務省公表）

区分	－単位－	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			
				(12月予測)	(1月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	92.9	88.2	94.9	94.6	38.28 (百万ヘクタール)	7.3%
収穫面積	(百万エーカー)	85.0	78.7	87.1	86.5	35.01 (百万ヘクタール)	9.9%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.7	173.4	174.9	177.3	11.13 (トン/ヘクタール)	2.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,361	1,360	34.55 (百万トン)	▲1.2%
生産量	(百万ブッシェル)	15,018	13,651	15,234	15,342	389.70 (百万トン)	12.4%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	39	25	25	0.64 (百万トン)	▲35.9%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,277	15,066	16,621	16,727	424.88 (百万トン)	11.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,427	12,045	12,390	12,465	316.62 (百万トン)	3.5%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,671	5,486	5,650	5,675	144.15 (百万トン)	3.4%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,757	6,559	6,740	6,790	172.47 (百万トン)	3.5%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,320	5,176	5,325	5,375	136.53 (百万トン)	3.8%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,472	1,661	2,100	2,100	53.34 (百万トン)	26.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,900	13,706	14,490	14,565	369.97 (百万トン)	6.3%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	2,131	2,162	54.92 (百万トン)	59.0%
期末在庫率	(%)	9.2	9.9	14.7	14.8		4.9ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.00	6.54	4.85	4.80	28.1 (円/kg)	▲26.6%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

（調査情報部 横田 徹）

中国

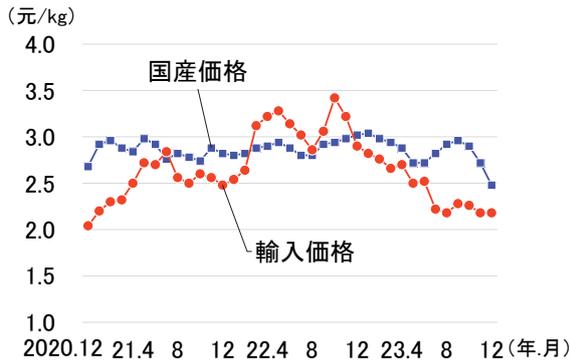
トウモロコシおよび大豆の需給動向

国産トウモロコシ価格、弱含みながらも安定して推移と予想

中国農業農村部は2024年1月22日、「農産物需給動向分析月報（2023年12月）」を公表した。この中で、23年12月の国産トウモロコシ価格は前月比8.8%安と3カ月続けて下落した（図1）。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、供給面では収穫を終えた

主産地からの潤沢な供給が伝えられている。需要面では、供給量の増加から価格が下落したことで、市場取引は活発な状況とされている。ただし、政府系穀物備蓄企業が国内各地でトウモロコシの買い付けを発表したため、価格の下落幅は大幅に縮小したとされている。今後、国内各地で順次買い付けが実施されるため、需給は均衡に向かい、価格は弱含みながらも安定した推移が見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。
 注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

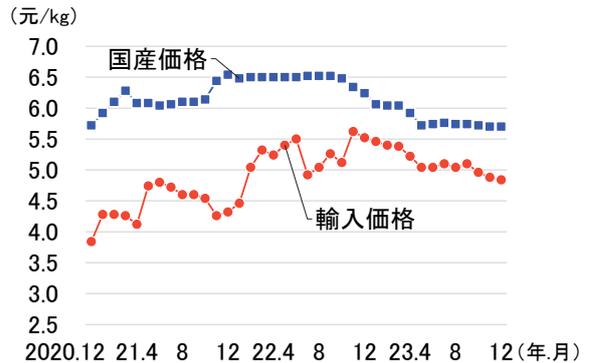
各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、23年12月が1キログラム当たり2.18元（45円：1元=20.82円^{（注）}）となった。その結果、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.48元（52円）となったことで、先月の同0.54元（11円）から同0.30元（6円）に縮小した。

国産大豆価格、需給の緩みから弱含みでの推移と予想

2023年12月の国産大豆価格は、前月同となった（図2）。同月の国内の大豆需給を見ると、供給面ではトウモロコシと同様に収穫を終えた主産地からの潤沢な供給が伝えられている。一方で、需要面では川下の動きが引き続き緩慢な状況にあるとされている。このため、今後の国産大豆価格は、弱含みでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

23年12月が1キログラム当たり4.86元（101円、前年同月比14.1%安）と前年同月をかなり大きく下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.70元（119円、同8.7%安）とかなりの程度下回った。国産大豆と輸入大豆との価格差は、同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同4.84元（101円）となったことで、同0.86元（18円）とわずかに広がった。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準で推移している。23年（1～11月）の輸入量は8963万トン（前年同期比13.3%増）、輸入額は同1.5%増の541億5300万米ドル（8兆444億円：1米ドル=148.55円^{（注）}）と報告されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年1月末TTS相場。

23/24年度のトウモロコシ、大豆の生産量はともに前年度比増と予測

中国農業農村部は2024年1月12日、最新の「中国農産物需給状況分析」を公表した。この中で、23/24年度（10月～翌9月）の

トウモロコシ生産量の予測について、前月から61万トン上方修正の2億8884万トン（前年度比4.2%増）と見込まれている（表1）。今回の公表では、単収が前月から下方修正された一方、作付面積および収穫面積が上方修正されたことで、単収の減少分を補う形となった。また、輸入量および消費量が前月から据え置かれたことで、同年度のトウモロコシの過不足は1133万トンの余剰（同110.2%増）が見込まれている。

同年度の大豆生産量については、前月から5万トン下方修正の2084万トン（同2.8%増）と見込まれている（表2）。今回の公表では、単収が前月から下方修正される一方、作付面積および収穫面積が上方修正されたこ

とで、トウモロコシと同様に単収の減少分を補う形となった。また、輸入量は前月から据え置かれたが、消費量（種子向け）が上方修正されたことで、同年度の大豆の過不足は94万トンの余剰（同80.2%減）が見込まれている。

23/24年度は、前年度に続いて中央政府から大豆の増産に全力を挙げるとの方針が打ち出されたこともあり、主産地での収穫が終了し生産量がほぼ確定する今回の公表が注目されていた。トウモロコシの生産量は過去最高を記録した前年度を更新し、大豆の生産量についても前年度増と見込まれるなど、良好な状況になっている。

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2024年1月12日中国農業農村部公表）

区 分	—単位—	2021/22	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
				(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	43,324	43,070	43,870	44,219	2.7%
収穫面積	(千ヘクタール)	43,324	43,070	43,870	44,219	2.7%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,291	6,436	6,570	6,532	1.5%
生産量	(万トン)	27,255	27,720	28,823	28,884	4.2%
輸入量	(万トン)	2,189	1,872	1,750	1,750	▲ 6.5%
総供給量（生産量+輸入量）	(万トン)	29,444	29,592	30,573	30,634	3.5%
消費量	(万トン)	28,770	29,051	29,500	29,500	1.5%
食用向け	(万トン)	965	980	991	991	1.1%
飼料向け	(万トン)	18,600	18,800	19,100	19,100	1.6%
工業向け	(万トン)	8,000	8,100	8,238	8,238	1.7%
種子向け	(万トン)	195	191	193	193	1.0%
その他向け	(万トン)	1,010	980	978	978	▲ 0.2%
輸出量	(万トン)	0	1	1	1	—
総消費量（消費量+輸出量）	(万トン)	28,770	29,052	29,501	29,501	1.5%
差引数量（総供給量-総消費量）	(万トン)	674	539	1,072	1,133	110.2%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

表2 中国の大豆需給見通し（2024年1月12日中国農業農村部公表）

区 分	一単位一	2021/22 年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
				(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	8,400	10,243	10,443	10,470	2.2%
収穫面積	(千ヘクタール)	8,400	10,243	10,443	10,470	2.2%
単収	(キログラム/ヘクタール)	1,952	1,980	2,000	1,991	0.6%
生産量	(万吨)	1,640	2,028	2,089	2,084	2.8%
輸入量	(万吨)	9,030	9,870	9,725	9,725	▲ 1.5%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万吨)	10,670	11,898	11,814	11,809	▲ 0.7%
消費量	(万吨)	10,797	11,415	11,692	11,700	2.5%
搾油向け	(万吨)	9,054	9,593	9,778	9,778	1.9%
食用向け	(万吨)	1,355	1,432	1,500	1,500	4.7%
種子向け	(万吨)	88	90	84	92	2.2%
その他向け	(万吨)	300	300	330	330	10.0%
輸出量	(万吨)	10	9	15	15	66.7%
総消費量（消費量＋輸出量）	(万吨)	10,807	11,424	11,707	11,715	2.5%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万吨)	▲ 137	474	107	94	▲ 80.2%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

(調査情報部 横田 徹)